2026/2/11 新潟産業大学 子育て家族会
「さんだい秘密基地」プレイベント

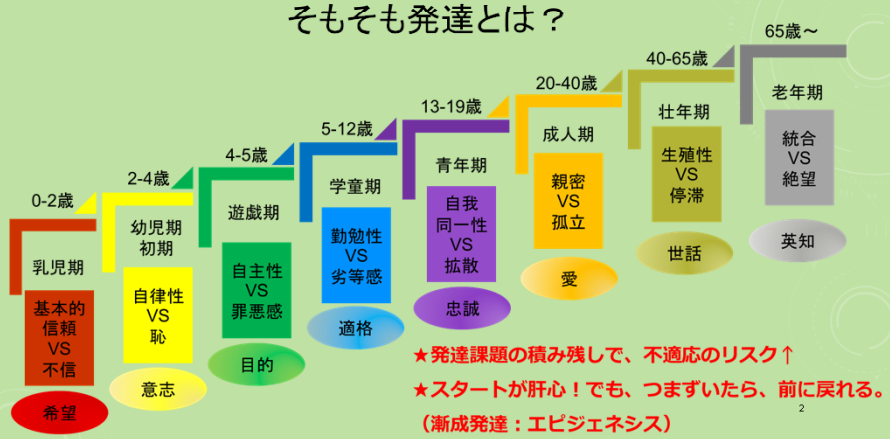
「発達ってなぁに?」
ー発達“表現”という視座ー

坂本　悠馬（新潟産業大学/臨床心理士/スポーツカウンセラー）

1

1

そもそも発達とは？

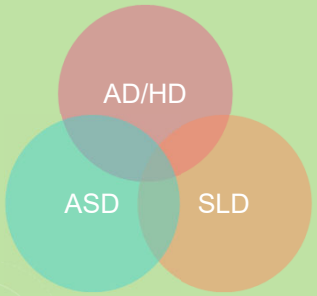


★発達課題の積み残しで、不適応のリスク↑
★スタートが肝心！でも、つまずいたら、前に戻れる。
（漸成発達：エピジェネシス）

2

2

「発達障害」とは？



- 正式名称は「神経発達障害群」Developmental Disorders
- 先天的な脳の機能障害による行動や思考の偏り
- 偏り ＝ 個性であって“障害”ではない。
- 自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（AD/HD）、限局性学習障害（SLD）に大別され、重複していることもある。

3

3

発達“表現”という視座

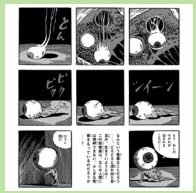
- こどもたちの**問題行動**、**特異な言動**などは「障害」として扱われやすい
→ しかし、いったい**誰にとっての障害**なのか？
- こどもたちにとって、この世のあらゆることは困難を極めるはずである
→ 言葉、集団行動など、中々できないことを「障害」と括っていいのだろうか…
- 確かに、こどもたちはできずに困っているかもしれないが、人が成長するために、困難や傷は付きものである（というより傷が無いと成長はないのではないか？）
- 困難、傷、理不尽は人を成長させるチャンス
→ そのため、安易な合理的配慮などの支援（？）は、成長の「障害」となるかもしれない
- 配慮を取り入れることによって**「楽」**になるのは、**こどもも大人も**
→ 困っているこどもと**「共に」**、大人が困ることは、大人にとっても成長のチャンス！

発達障害とするのは「楽」だが、発達“表現”としてこどもをみると「楽しい」

4

4

ちょっと休憩・・・



5

こどもの世界（表現）を体験する

☯ こどもたち（の表現）をみている時、どんな感覚、世界を体験しているのだろうかと想像する

→ すると、「何」を「どのように」楽しんでいるかがみえてくる

⇒ さらに、その表現の体験を共にしているとだんだんとあるイメージが浮かんでくる

➡ **こどもの「楽しさ」がみえると共に、自分とこどもの関係や関わりの方向性までみえてくる**

☯ 「たんけん、はっけん、ほっとけん」（ 河合隼雄（1995）『臨床教育学入門』）

→ 琵琶湖の排水問題について、「たんけん」したある子の作文：「カニ王国のカニ太」

✓ やる気がある子も、無い子も、「たんけん」と「はっけん」によって世界が広がる

✓「発見的」であり、「全ての人が現象のなかに生きている」

⇒ こどもの遊びの持つ力は、周囲をも巻き込み参加させる力も持っている

☆ 問題行動（?）と言われるこどもの行動には、「たんけん」と「はっけん」があるのかもしれない

⇒ 叱ること、躾けることは育ちの中で大切ではあるが、奪ってしまうこともある…

6

6

表現を通してこどもが“育つ”

☯ 教育、保育、養育、療育、食育、などなど…いろんな場面でこどもを育てようとしている

・育てる ・・・ 親など大人達がこども達を育てていく

・育　つ ・・・ こどもが自身の力で育っていく

→ こどもの潜在的可能性が育ってくるのを**待つ**、という**態度**が極めて重要（河合隼雄（1992）『心理療法序説』）

☯ こども達は、絶えずどんな場所でも“表現”を繰り返している（実は大人も…）

☯ “表現”を守るためには、**期待して待つ姿勢**が大切になる

☯ 色々と教えてあげる、手を差し伸べる、ことは大切だが、体験を奪うリスクもある

→ 表現の場を守っていくことこそがこどもの“育ち”には必要なのではないか

7

7

まとめ

☯ 発達障害は確かにあるものだが、そもそも人の成長（発達）は一筋縄ではいかない

→ 積み上げていけば人は発達（成長する

☯ こどもと共に困ることが大切

→「楽」と「楽しい」は紙一重

☯「みんな　こどものときは　妖怪です」（by 水木しげる）

→ わからないものをわからないままにして楽しむこと

☯ 障害されているのは、発達ではなく、生活を営む時に困ることがあるということ

→ 人は必ず育つ！ので、こどものペースで一つずつ積み上げていく（積み上がっていく）

発達障害という捉え方ではなく、

発達表現として、様々な事象を捉えてみたらどうだろうか

8

8